

希望の種

ふくおか NPOファイル

⑥

古賀市に近隣自治体のごみが運び込まれる「玄界環境組合古賀清掃工場」(エコロの森)の建設計画が持ち上がったのは16年前。ダイオキシンの健康被害が話題になっていった頃でした。不安に思った地域の女性が立ち上げた団体が現在の「エコけん」です。

中心になったのは元教員で、現在は理事長兼職員の清水佳香さん(56)。突然の報道に驚き、混乱したものの、清水さんたちはこう考えました。

「分らないことは自分たちで学ぼう」「よりよい未来のために手探りで行動し、行政とも協力し合おう」。まずは

エコけん

事務所=古賀市▽電話=092(944)6450▽メール
アドレス=ecoken@npo-ecoken.sakura.ne.jp

環境問題 女性が動く

ダイオキシンの発生源を減らすとプラスチックの分別回収を始めました。活動は地域で少しずつ根付き、寄付で支援する人たちも現れました。2001年にNPO法人として良い講座が継続できなくなり、そこで「しろくま」が提案するの

環境講座にも取り組んでいま13年に始めたのが、10千円。そうとプラスチックの分別回収す。ただ、学校側に負担をかけるの寄付で活動資金を集めるキ

てしまつと実施できる場所がヤンペーン。地球温暖化防止で少しずつ根付き、寄付で支限られてしまいますし、無償をイメージした「しろくまプ

ではプロとして良い講座が継プロジェクトと名付けました。PO法人となり、寄付集めの

取り組みをさらに広げる工夫が期待されます。

行政に対して、ただ、不満や批判を言うのではなく、自らの理念を掲げ、その実現のために汗をかく。そして異なる他者との違いを理解し合い、譲り合える点を見つけていくことが、NPOの武器です。

エコけんのホームページに

掲げられている言葉は「持続可能な社会の実現を、私たち

の地域から」。環境保護は義務ではなく、楽しさや心地よ

さの中で自然と広がっていくものだと、エコけんは考えて

います。

(仮認定NPO法人「アカツキ」代表理事・永田賢介)

「エコけん」を設立。2年後には古賀清掃工場に併設された再生展示棟の運営も任せられるようになり、家庭で簡単にできる節電・節水などの講座や、イオンモール福津で不要品のおもちゃを交換するワークショップ、省エネ効果を確かめる西部ガスと協働の鍋炊飯教室など、様々な体験型イベントを企画しています。実施回数は14年度末までに1740回を超え、のべ8万5千人が参加しています。

発会当初より、県内の小学校にスタンプが出向く体験型



エコけんが開発した環境学習教材を試す学校教諭や寄付者たち

は、地域の大人たちから子どもたちへの、体験と学びの贈り物です。寄付者向けの活動報告会では、講座を受けた子どもから「自分が、顔も知らない大人のたちから、見守られて育っているのだ」ということがわかりました。いうメッセージが届けられ、会場にはじんわりとした感動が

原則毎週月曜掲載